

1) 樹林地等保全設計図



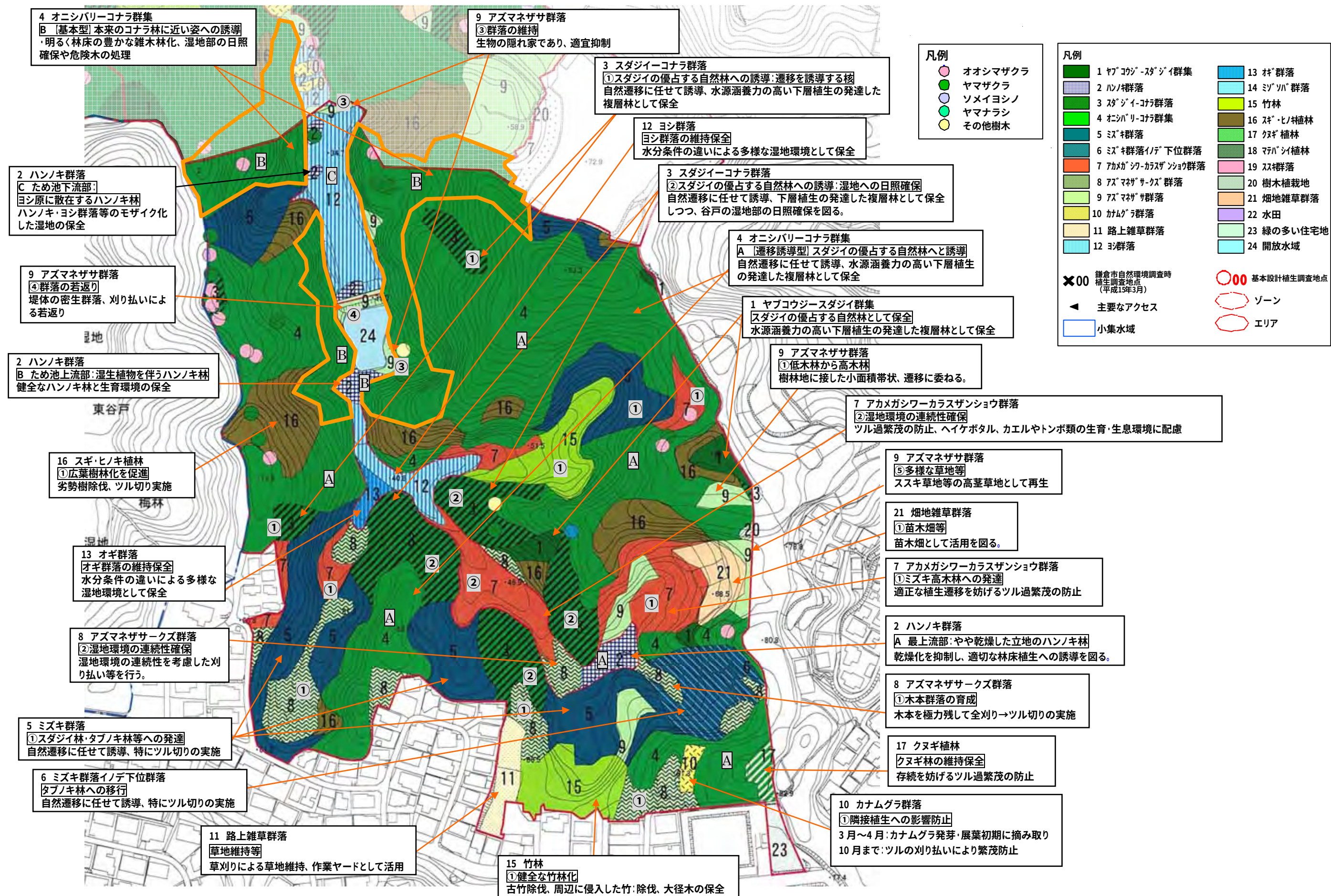
2) 各ゾーンの「保全目標と手法」及び「樹林地等保全図」

源流の森と里山の保全ゾーン 保全目標と手法

名称		現況植生	保全の目標	保全の手法 (整備及び管理の手法)		管理主体
			区分	初期整備	年間管理	長期管理
源流の森と里山の保全ゾーン	1	ヤブコウジースダジイ群集	スダジイの優占する自然林として保全	水源涵養力の高い下層植生の発達した複層林として保全		市
				ツル切り等	巡視管理 (月 1 回) ツル切り等 (年 1 回)	自然遷移 モニタ: 5 年
	3	スダジイコナラ群落	①スダジイの優占する自然林への誘導: 遷移を誘導する核	自然遷移に任せて誘導、水源涵養力の高い下層植生の発達した複層林として保全		市
				クズ等のツル切り 侵入竹の除伐	巡視管理 (月 1 回) ツル切り等 (年 1 回)	自然遷移 モニタ: 5 年おき
			②スダジイの優占する自然林への誘導: 湿地への日照確保	自然遷移に任せて誘導、下層植生の発達した複層林として保全しつつ、谷戸の湿地部の日照確保を図る。		市
				谷戸の湿地隣接部枝払い	巡視管理 (月 1 回) ツル切り等 (年 1 回)	自然遷移 モニタ: 5 年おき
	4	オニシバリーコナラ群集	A [遷移誘導型] スダジイの優占する自然林へと誘導	自然遷移に任せて誘導、水源涵養力の高い下層植生の発達した複層林として保全		市
				ツル切り、刈り払い (後継樹保全)	巡視管理 (月 1 回) ツル切り等 (年 1 回)	自然遷移 モニタ: 5 年おき
			B [基本型] 本来のコナラ林に近い姿への誘導	明るく林床の豊かな雑木林化、湿地部の日照確保や危険木の処理		市 + 市民
				間伐、刈り払い・落ち葉かき	刈り払い・落ち葉かき (年 1 回)	雑木林維持 モニタ: 5 年おき
	5	ミズキ群落	①スダジイ林・タブノキ林等への発達	自然遷移に任せて誘導、特にツル切りの実施		市
				ツル切り	巡視管理、ツル切り	自然遷移
	6	ミズキ群落イノデ下位群落	タブノキ林への移行	自然遷移に任せて誘導、特にツル切りの実施		市
				ツル切り	巡視管理、ツル切り	自然遷移
	7	アカメガシワークラスザンショウ群落	①ミズキ高木林への発達	適正な植生遷移を妨げるツル過繁茂の防止		市
				ツル切り	巡視管理、ツル切り	自然遷移
	8	アズマネザササークス群落	①木本群落の育成	木本を極力残して全刈り→ツル切りの実施		市
				木本以外刈り払い	巡視管理、ツル切り	自然遷移
	9	アズマネザサ群落	①低木林から高木林	樹林地に接した小面積帯状、遷移に委ねる。		市
				木本以外刈り払い	巡視管理、ツル切り	自然遷移
			⑤多様な草地等	ススキ草地等の高茎草地として再生		市 + 市民
				全刈り、低木伐採	草刈り (年 1~2 回)	草地維持
	10	カナムグラ群落	①隣接植生への影響防止	3 月~4 月: カナムグラ発芽・展葉初期に摘み取り 10 月まで: ツルの刈り払いにより繁茂防止		市 + 市民
				繁茂防止措置	—	自然遷移
	11	路上雑草群落	草地維持等	草刈りによる草地維持、作業ヤードとして活用		市
				草刈り	草刈り (年 1~2 回)	草地維持

名称		現況植生	保全の目標	保全の手法 (整備及び管理の手法)		管理主体
			区分	初期整備	年間管理	長期管理
源流の森と里山の保全ゾーン	15	竹林	①健全な竹林化	古竹除伐、周辺に侵入した竹: 除伐、大径木の保全		市 + 市民
				除伐	除伐 (年 1 回)	竹林維持
	16	スギ・ヒノキ植林	①広葉樹林化を促進	劣勢樹除伐、ツル切り実施		市
				除伐、ツル切り	巡視管理	自然遷移
源流域の湿地保全エリア	17	クヌギ植林	クヌギ林の維持保全	存続を妨げるツル過繁茂の防止		市
				ツル切り	巡視管理	クヌギ林維持
	21	畑地雑草群落	①苗木畑等	苗木畑として活用を図る。		市 + 市民
				草刈り、耕耘	耕耘 (年 1 回)、草刈り (年数回)	畑維持
	2	ハンノキ群落	A 最上流部: やや乾燥した立地のハンノキ林	乾燥化を抑制し、適切な林床植生への誘導を図る。		市 + 市民
				刈り払い、傾斜木の枝払い、伐採やツル切り	刈り払い、ツル切り、立入禁止等の措置	ハンノキ林維持 モニタ: 毎年
			B ため池上流部: 湿生植物を伴うハンノキ林	健全なハンノキ林と生育環境の保全		市 + 市民
				日照確保のための枝払い、伐採やツル切り	刈り払い、ツル切り、立入禁止等の措置	ハンノキ林維持 モニタ: 毎年
	7	アカメガシワークラスザンショウ群落	②湿地環境の連続性確保	ツル過繁茂の防止、ヘイケボタル、カエルやトンボ類の生育・生息環境に配慮		市 + 市民
				部分的な間伐等	巡視管理	湿地の維持
	8	アズマネザササークス群落	②湿地環境の連続性確保	湿地環境の連続性を考慮した刈り払い等を行う。		市 + 市民
				刈り払い	巡視管理	湿地の維持
	9	アズマネザサ群落	③群落の維持	生物の隠れ家であり、適宜抑制		市
				刈り払い	適宜刈り払い	草地維持
			④群落の若返り	堤体の密生群落、刈り払いによる若返り		市
				堤体補強時に刈り払い	隔年程度の刈り払い	堤体保全
里山の湿地保全エリア	12	ヨシ群落	ヨシ群落の維持保全	水分条件の違いによる多様な湿地環境として保全		市 + 市民
				立入禁止等の措置	堆積物処理	湿地の維持 モニタ: 毎年
	13	オギ群落	オギ群落の維持保全	水分条件の違いによる多様な湿地環境として保全		市 + 市民
				立入禁止等の措置	堆積物処理	湿地の維持 モニタ: 毎年
	2	ハンノキ群落	C ため池下流部: ヨシ原に散在するハンノキ林	ハンノキ・ヨシ群落等のモザイク化した湿地の保全		市 + 市民
				実生保護、坪刈り	坪刈り	ハンノキ林維持 モニタ: 毎年
	9	アズマネザサ群落	③群落の維持	生物の隠れ家であり、適宜抑制		市
				刈り払い	適宜刈り払い	草地維持
	12	ヨシ群落	ヨシ群落の維持保全	水分条件の違いによる多様な湿地環境として保全		市 + 市民
				立入禁止等の措置	堆積物処理	湿地の維持 モニタ: 毎年

源流の森と里山の保全ゾーン 樹林地等保全図

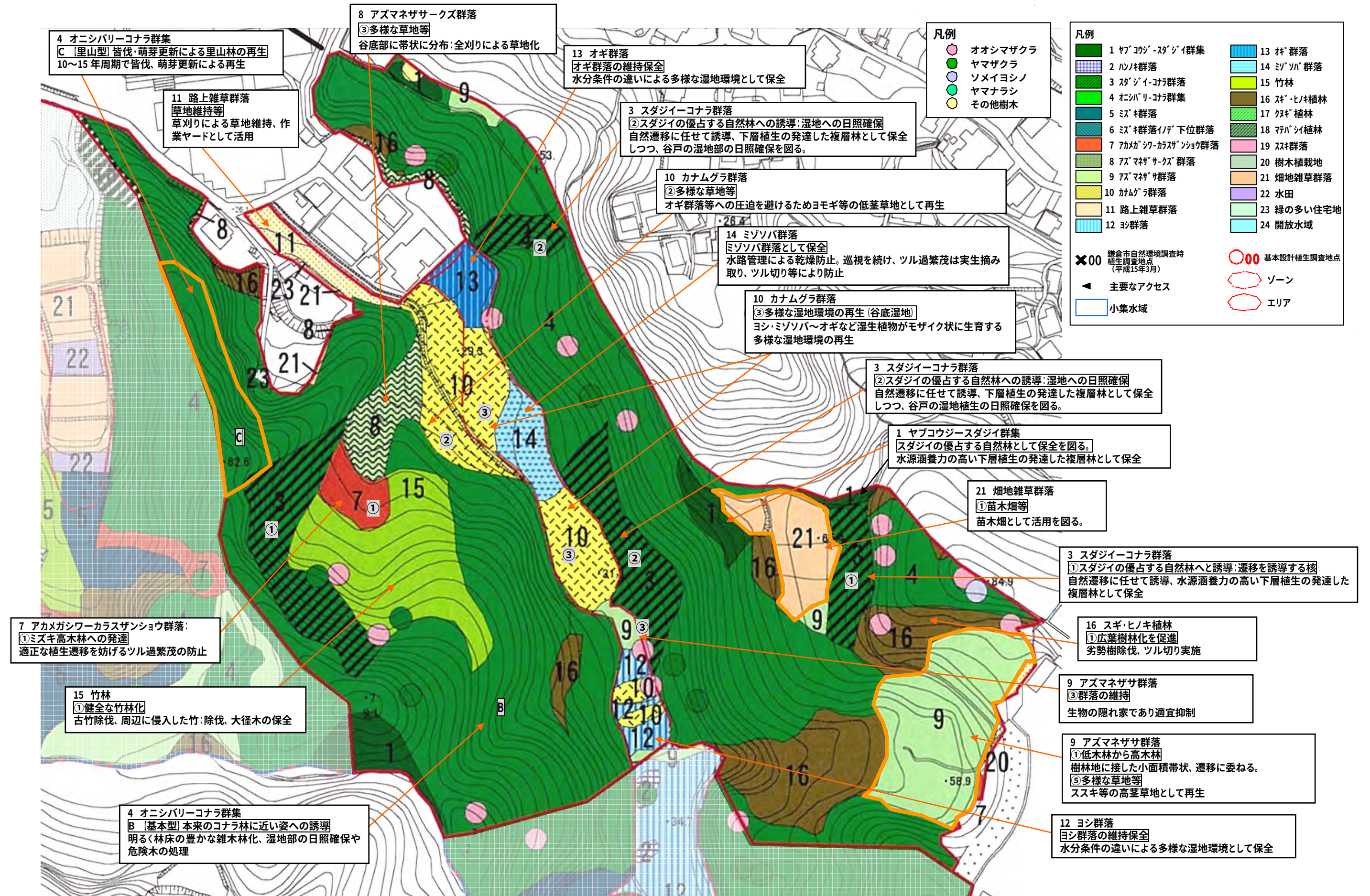


里山の保全ゾーン 保全目標と手法

名称	現況植生	保全の目標	保全の手法（整備及び管理の手法）		管理主体
		区分	初期整備	年間管理	長期管理
里山の保全ゾーン	1 ヤブコウジースダジイ群集	スダジイの優占する自然林として保全を図る。	水源涵養力の高い下層植生の発達した複層林として保全 ツル切り等		市 自然遷移 モニタ：5 年おき
	3 スダジイコナラ群落	①スダジイの優占する自然林への誘導：遷移を誘導する核	自然遷移に任せて誘導、水源涵養力の高い下層植生の発達した複層林として保全 クズ等のツル切り、侵入竹の除伐		市 自然遷移 モニタ：5 年おき
		②スダジイの優占する自然林への誘導：湿地への日照確保	自然遷移に任せて誘導、下層植生の発達した複層林として保全しつつ、谷戸の湿地部の日照確保を図る。 谷戸の湿地隣接部枝払い		市 自然遷移 モニタ：5 年おき
	4 オニシバリーコナラ群集	㊦【基本型】本来のコナラ林に近い姿への誘導	明るく林床の豊かな雑木林化、湿地部の日照確保や危険木の処理 間伐、刈り払い・落ち葉かき		市＋市民 雑木林維持 モニタ：5 年おき
		㊧【里山型】皆伐・萌芽更新による里山林の再生	10～15 年周期で皆伐、萌芽更新による再生 皆伐・萌芽更新＋刈り払い・落ち葉かき		市＋市民 里山林維持 モニタ：5 年おき
	7 アカメガシワーカラスザンショウ群落	①ミズキ高木林への発達	適正な植生遷移を妨げるツル過繁茂の防止 ツル切り		市 自然遷移
	8 アズマネザサークズ群落	③多様な草地等	谷底部に帯状に分布：全刈りによる草地化 刈り払い		市＋市民 草地維持
	9 アズマネザサ群落	①低木林から高木林	樹林地に接した小面積帯状、遷移に委ねる。 木本以外刈り払い		市 自然遷移
		⑤多様な草地等	ススキ等の高茎草地として再生 全刈り、低木伐採		市＋市民 草地維持
	10 カナムグラ群落	②多様な草地等	オギ群落等への圧迫を避けるためヨモギ等の低茎草地として再生 全刈り、低木伐採、搬出		市＋市民 草地維持
	11 路上雑草群落	草地維持等	草刈りによる草地維持、作業ヤードとして活用 草刈り		市 草地維持
	15 竹林	①健全な竹林化	古竹除伐、周辺に侵入した竹：除伐、大径木の保全 除伐		市＋市民 竹林維持
	16 スギ・ヒノキ植林	①広葉樹林化を促進	劣勢樹除伐、ツル切り実施 除伐、ツル切り		市 自然遷移
	21 畑地雑草群落	①苗木畑等	苗木畑として活用を図る。 草刈り、耕耘		市＋市民 畑維持
			耕耘(年 1 回) 草刈り(年数回)		

名称	現況植生	保全の目標	保全の手法（整備及び管理の手法）		管理主体
		区分	初期整備	年間管理	長期管理
里山の湿地再生エリア	9 アズマネザサ群落	③群落の維持	生物の隠れ家であり適宜抑制 刈り払い		市 草地維持
	10 カナムグラ群落	③多様な湿地環境の再生（谷底湿地）	ヨシ・ミゾソバ～オギなど湿生植物がモザイク状に生育する多様な湿地環境の再生 分水堰からの導水による発芽防止措置又は全刈り		市＋市民 湿地維持 モニタ：毎年
	12 ヨシ群落	ヨシ群落の維持保全	水分条件の違いによる多様な湿地環境として保全 立入禁止等の措置		市＋市民 湿地の維持 モニタ：毎年
	13 オギ群落	オギ群落の維持保全	水分条件の違いによる多様な湿地環境として保全 立入禁止等の措置		市＋市民 湿地の維持 モニタ：毎年
	14 ミゾソバ群落	ミゾソバ群落として保全	水路管理による乾燥防止。巡視を続け、ツル過繁茂は実生摘み取り、ツル切り等により防止 ツル切り		市＋市民 湿地の維持 モニタ：毎年
			巡視		

里山の保全ゾーン 樹林地等保全図



里山再生ゾーン 保全目標と手法

名称		現況植生	保全の目標	保全の手法(整備及び管理の手法)		管理主体
			区分	初期整備	年間管理	長期管理
里山再生ゾーン	1	ヤブコウジースダジイ群集	スダジイの優占する自然林として保全を図る。	水源涵養力の高い下層植生の発達した複層林として保全 ツル切り等	巡視管理(月1回) ツル切り等(年1回)	市 自然遷移 モニタ:5年おき
	3	スダジイ・コナラ群落	①スダジイの優占する自然林への誘導:遷移を誘導する核	自然遷移に任せて誘導、水源涵養力の高い下層植生の発達した複層林として保全 クズ等のツル切り、侵入竹の除伐	巡視管理(月1回) ツル切り等(年1回)	市 自然遷移 モニタ:5年おき
	4	オニシバリ・コナラ群集	㊦ [里山型] 皆伐・萌芽更新による里山林の再生	10～15年周期で皆伐、萌芽更新による再生 皆伐・萌芽更新+刈り払い・落ち葉かき	刈り払い・落ち葉かき(年1回)	市+市民 里山林維持 モニタ:5年おき
	5	ミズキ群落	②林床植物の多様化(エビネ等)	緩傾斜地:刈り払い、ツル切りによる林床植物の多様化 その他:巡視管理 刈り払い、ツル切り	巡視管理	市+市民 ミズキ林維持
	7	アカメガシワ・カラスザンショウ群落	①ミズキ高木林への発達	適正な植生遷移を妨げるツル過繁茂の防止 ツル切り	巡視管理、ツル切り	市 自然遷移
	8	アズマネザサ・ササ群落	①木本群落の育成	木本を極力残して全刈り→ツル切りの実施 木本以外刈り払い	巡視管理、ツル切り	市 自然遷移
	9	アズマネザサ群落	②雑木林化 ⑥多様な草地等	コナラ林間ササ原は補植等により雑木林化 補植 ヨモギ等の低茎草地として再生 全刈り、低木伐採	草刈り(年1～2回) 草刈り(年3～4回)	市+市民 雑木林化 市+市民 草地維持
	15	竹林	②竹林の再生	密度管理等により、良好な竹林の再生を図る。 劣勢竹除伐、古竹除去、間引き	年間で2割程度間引き	市+市民 竹林維持
	16	スギ・ヒノキ植林	②スギ・ヒノキ林の育成	間伐(径20φ以下)等、スギ優勢樹にかかる広葉樹を除伐する。その後は必要に応じて、間伐、刈り払い、ツル切りを行いスギ・ヒノキ林の育成を図る。 間伐、除伐、ツル切り	必要に応じて、間伐等	市+市民 スギ・ヒノキ林
	18	マテバシイ植林	マテバシイ薪炭林	コナラ薪炭林に準じた薪炭林施業、用材(散策路)、ドングリ(食用)の利用 除伐、ツル切り	巡視管理	市+市民 里山林維持
	21	畑地雑草群落	②畑等	小学校等の耕作体験としての畑地の利用を継続しながら、畑地として活用、作物や苗木の畑として再生する。 全刈り、低木伐採、搬出、耕転	耕転(年1回) 草刈り(年数回)	市+市民 畑維持

名称		現況植生	保全の目標	保全の手法(整備及び管理の手法)		管理主体
			区分	初期整備	年間管理	長期管理
d 水田・湿地再生エリア	5	ミズキ群落	②林床植物の多様化(エビネ等)	緩傾斜地:刈り払い、ツル切りによる林床植物の多様化 その他:巡視管理 刈り払い、ツル切り	巡視管理	市+市民 ミズキ林維持
	21	畑地雑草群落	③水田・湿生草地	カエル類など水田周辺の水生生物を保全するため、水田耕作の継承も含む多様な湿地として再生を図る。 水田・湿地としての基盤整備	耕作管理、湿地管理	市+市民 水田・湿地維持

里山再生ゾーン 樹林地等保全図

